

教育目標		「いのち」かがやく 瑞穂の子 ～心豊かに たくましく～						
重点目標		1確かな学力の向上 2豊かな心づくり 3体力の向上 4学年・学級経営の充実 5家庭・地域・関係機関との連携 6教職員の育成						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成 学校教育	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	基礎的・基本的な知識・技能の習得 読書活動の充実 学習形態を工夫し、思考力・判断力・表現力の向上を図る 学びを深め合う学習集団づくりに努め、学習意欲の向上を図る	教科担任制が進められるような時間割を組み、子どもたちにより専門的な授業を行えるように工夫する。 教科横断的な授業が組めるよう、カリキュラムマネジメントを進める。 主体的な学びにつながるよう、「一人学び」「グループ学び」「全体学び」の授業構成を仕組む。 考えが深まる話し合いになるための手立てを考える。 つけたい力を明確にした授業を行う。系統指導の徹底。 さわやかなタイムを活用し、語彙力を高める学習を行う。 毎週水曜日全クラスで朝読書を実施する。 学級文庫、学年ブックトラックの本の充実。 読書記録カード、読書の本、表彰などの取り組みを行い、読書に興味を持たせる。	児童アンケートで「授業はわかりやすく楽しいですか」という質問に対して「そう思う」の回答の割合が70%以上になる。(研究) 児童アンケートで「読書することを楽しく感じますか」という質問に対して肯定的回答の割合が80%以上になる。 読書冊数が1人あたり、一年間で50冊以上になる。	B	「授業はわかりやすく楽しいですか」という質問に対して「そう思う」の割合が62%と目標を少し下回ったが、「ややそう思う」も含めた肯定的回答の割合は、91%と9割を越えている。 「読書することを楽しく感じますか」という質問に対して、肯定的回答87%であり、おおむねの児童が50冊以上読書している。	さらに学習意欲が高まるよう、児童の実態を把握し、それに合わせた授業づくりを行っていく。 教員の授業力向上や児童の主体的な学びに向かう態度を養うために、教材開発やICT機器の活用に取り組む。 つけたい力を明確にした授業づくりに取り組む。 引き続き、子どもたちがすぐに本を手にとることができるような環境整備を続けていく。 授業で本を活用しやすいように、調べ学習用の本を保管している第2図書室の整備を行う。	授業参観では、どの授業も子どもが楽しんで、先生方がわかりやすく工夫された丁寧な授業で素晴らしいと感じる。 児童が楽しんで自ら感じられる分りやすい授業の工夫をさらに推進してほしい。 読書カードや、九九先生・ラズボス九九表表彰等、楽しく取り組める工夫があり、良かった。 めめてがアクションになっている場合もある。このアクションで何を得られるのかの深掘りが大切である。 「授業はわかりやすく楽しいですか？」の回答が学年により差があるのが気になる。個人差がある学習意欲の向上の取組として、グループ学びを通じて参加を促し教える時間を設ける方法もある。
	新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	児童の情報活用能力の育成 教師の情報活用能力の育成 英語教育の充実 デジタル化の促進	タブレットの操作などにおいて、教師・児童の情報活用能力を高める研修を行う。 情報教育の年間カリキュラムを作成し、それに基づいて授業を行う。 JTEやALTと連携し、必然性のある言語活動を軸に授業が行えるようにする。 デジタル教材を多用し、視覚的に学習を進める。	児童アンケートで「タブレットを活用した授業は分かりやすい」と回答した割合が、80%以上になる。また、教職員アンケートで「ICT機器(タブレット)を活用した教育活動を行っている」と回答した割合が80%以上になる。 児童アンケートの「外国語活動・英語の学習は楽しい」と回答した割合が80%以上になる。	A	児童アンケートでは、「タブレットを活用した授業は分かりやすい」という項目で94%が肯定的な回答をしており、目標を上回った。 教職員アンケートでは、「ICT機器(タブレット)を活用した教育活動を行っている」と回答した職員が91%が肯定的な回答をしており、目標を上回った。 ICT教育年間指導計画に加え、タイピングスキルの指導の系統表を作成することができた。	研修を行い、スキルアップを行うことができたが、職員同士で活用した事例を共有できる場を増やす必要がある。 タイピングの指導の系統表を作成することができたが、今年学年でインストールしたアプリなどを、引き続き場が必要である。	タブレットを使用した授業もスムーズで、児童も使いこなせていて素晴らしい。先生の努力もあってのこと。 メリットとデメリットを共有して、ICTの教育に期待している。引き続き具体的政策を深掘りし、先行事例を参考に、研修にも取り組んでほしい。 外国語学習で6年生の楽しいと思う割合が少ななっているのが残念である。中学校では英語の内容がかなり難しくなるので、気になる。
	「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	道徳の時間を要して、体験活動の充実を図り、道徳実践的・自尊感情を育む。 いじめ問題への対応力の向上	道徳の時間の充実(道徳と人権教育の授業参観をそれぞれ1回以上実施) 児童の共通理解の場をもつ。 教師自身の人権感覚を磨くため、校内・校外の研修に参加する。 いじめ等に関する実態把握のためのアンケート調査を実施することで実態把握を行い、迅速対応を行う。また、いじめ予防のために、学級経営プラン(みずほっ子プラン)を基にした研修会を行う。	児童アンケートで「学校へ行くのが楽しいですか」という質問に対して肯定的回答の割合が90%になる。 児童アンケートで「道徳と人権教育の授業参観をそれぞれ1回以上実施した」という項目で96%が肯定的な回答をしており、目標を上回った。 学級経営プランを通して、身近な教員同士の学級経営のコツを知ったり、学級の様子や授業の様子を振り返ったりすることで、学級経営力の向上を図ることができた。	B	道徳と人権教育の授業参観をそれぞれ1回以上実施した。 児童アンケートでは、「学校は楽しいか」という項目で96%が肯定的な回答をしており、目標を上回った。 学級経営プランを通して、身近な教員同士の学級経営のコツを知ったり、学級の様子や授業の様子を振り返ったりすることで、学級経営力の向上を図ることができた。	児童アンケートでは、「肯定的回答ではない7%の児童がいることを忘れず、児童に寄り添っていくことが必要である。 道徳授業では「それぞれの個性を大事に」を、子どもの発言を引き出しながら進めている。すべての子どもを受け入れられクラス作りを重ねてほしい。 教員同士の良いところを交流し真似してスキルアップにつなげてほしい。	道徳授業では「それぞれの個性を大事に」を、子どもの発言を引き出しながら進めている。すべての子どもを受け入れられクラス作りを重ねてほしい。 教員同士の良いところを交流し真似してスキルアップにつなげてほしい。
	「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	体力向上と健康の保持増進	学年ごとに体力を向上させる運動を年間通じて実施し、体力向上に努める。 基本的な生活習慣について、保健や食育等の時間を中心に日々の生活の中で指導を継続的に行う。 保護者と協力しながら早寝・早起き・朝ごはんの指導にあたる。 アレルギー対策委員会や研修を年間2回以上ひらくことで、職員の共通理解を深める。	体力作りの取り組みを実施し、多様な動きを身につけさせるとともに、全国の平均の数値を目指す。 児童アンケートで「毎日、早寝早起きをし、朝ごはんを食べていますか」という質問に対して肯定的回答の割合が85%以上になる。 給食アレルギー対応プランの確実な実施のためのシステムを構築する。	B	様々な運動ができるようカリキュラムを組んだ。体力作りのための行事も実施した。また、体力テストの結果は男女ともに50m走以外の項目で全国平均の数値を超える結果であった。 児童アンケートで「毎日、早寝早起きをし、朝ごはんを食べていますか」という質問に対して肯定的回答の割合が80%だった。 アレルギー対策委員会や研修を年間2回以上開いた。アレルギー対応について共通理解を深めることができた。	今後さまざまな運動を経験できるようにカリキュラムを期待したい。 ふれあいタイムや体育授業の子どもたちは、運動場を走り回り元気一杯に感じる。体育が苦手な子でも、できた事はたくさん褒めて自信を持たせてほしい。 2年生では宿題で毎日体力作りの項目があった。運動場の向上に加えて、姿勢や集中力の向上にも効果があった。学年が上がっても続けてほしい。 「早寝早起き朝ごはん」は家庭教育の範囲なので、学校にお願いする事は理不尽だが、残念ながらできていない事情もある。最近の子は悪い事が多く遅い時間に帰宅し就寝も遅い。具体的に何時までに寝るのが理想か等を話すなどの連携をお願いしたい。	体力作りはとても大切であり、すべての項目にカリキュラムを期待したい。 ふれあいタイムや体育授業の子どもたちは、運動場を走り回り元気一杯に感じる。体育が苦手な子でも、できた事はたくさん褒めて自信を持たせてほしい。 2年生では宿題で毎日体力作りの項目があった。運動場の向上に加えて、姿勢や集中力の向上にも効果があった。学年が上がっても続けてほしい。 「早寝早起き朝ごはん」は家庭教育の範囲なので、学校にお願いする事は理不尽だが、残念ながらできていない事情もある。最近の子は悪い事が多く遅い時間に帰宅し就寝も遅い。具体的に何時までに寝るのが理想か等を話すなどの連携をお願いしたい。
	教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	キャリア教育の推進 一人一人の子どもの心と「心の居場所」のある学級作りの実践	キャリアパスポートを活用し、一年ごとの成長を記録するとともに、定期的な自分の成長を振り返る機会を作り自己肯定感を高める。 必要な児童がSCを活用し、心の安定を保てるように働きかける。	児童アンケートで「自分には良いところがある」と思っている。と回答した割合が80%以上になる。 SCについて職員に周知し、積極的に活用する。	A	児童アンケートでは、「自分には良いところがある」と思っている。と回答した割合が80%が肯定的な回答をしており、目標を上回った。 今年度は、SCやSSWを、学校に行きにくさを感じている児童、家庭についでいけるケースが多かった。	児童アンケートでは、肯定的回答ではない20%の児童がいることを忘れず、子どもたちが自分に自信を持って、子どわりや指導をしていくことが必要である。 学校に行きにくさを感じている児童、家庭に対して、初期の段階でSSWやSCに繋いでいけるようにしていきたい。	自尊感情が高く、現状の対応は素晴らしい。引き続き、どんな児童も受容し、誰も取り残さないようにしてほしい。 すべての児童が「自分には良いところがある」との自己肯定感を持つためには、大人の声かけを考えなければいけない。さらに研修を深めてほしい。 励まして児童が否定的な場合等は、先生で抱え込まずSCにつなげてほしい。また先生自身の悩みもSCの活用も大切。SCの周知は今後改善が必要。
特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	特別支援教育の充実 一人一人の教育的ニーズを把握し、関係機関と連携し、適切な教育的支援を行う	伊丹特別支援学校センター機能を活用し、より円滑な組織づくりに努める。 適切に特別支援教育支援員を配置して、より充実したサポートとなるよう推進していく。 配慮を要する児童の特性や支援について、校内委員会や校内研修で交流し、関係機関との積極的な連携を図る。	伊丹特別支援学校センター機能を周知し、コンサルテーションの実施など、関係機関と積極的に連携する。 特別支援教育支援員の時間割を作成し、児童の実態に応じて、年3回以上見直す。 全職員が配慮を要する児童を理解するための研修会を年2回以上実施する。	A	コンサルテーション、巡回相談、教育相談を合計16回行い、専門的な立場からの助言を受け、サポートファイルを作成したり、日々の指導に生かしてきた。 特別支援教育支援員、スクールサポーターの時間割は月別報告の実態に応じて、毎月見直しをした。 児童理解のための研修会を3回、講師を招いての研修会を2回実施した。	児童の実態把握をし、必要に応じて早期に伊丹特別支援学校センター機能を活用していきたい。 特別支援教育支援員、スクールサポーターと日々の情報交換を継続して行い、配慮を要する児童への支援をより充実させていきたい。	とても良い取組である。きらくショップでは保護者も交流学級の先生も参加し楽しかった。野菜販売で子どもたちが生き生きと一生懸命な姿が見られて良かった。 細かな情報交換の継続が大切である。子どもの変化が多いので、支援体制を適宜見直しされるのは素晴らしい。特別支援教育支援員と学級担任との情報交換、専科と学級担任との情報交換の充実を期待したい。	
教職員の資質向上 ①研修等の充実	実践的指導力の向上	一人一授業を行い、授業力向上を図る。 計画的に研究授業を行い、講師の先生より授業作りについて研修する。 自主研修会(午後teaの会)を開き、多岐にわたって研修する。	教職員アンケートの「計画的な授業研究や研修を行えたか」の質問に対して「そう思う」の回答の割合が50%以上になる。 教職員アンケートの「よくわかる授業づくりに努める」の質問に対して「そう思う」の回答の割合が65%以上になる。	B	教職員アンケートの「計画的な授業研究や研修を行えたか」の質問に対して「そう思う」の回答の割合が54%と、目標を上回った。 教職員アンケートの「よくわかる授業づくりに努める」の質問に対して「そう思う」の回答の割合が50%と、目標を下回った。 ※どちらのアンケートも肯定的意見の回答が100%であった。 4回の授業研究会を行い、その都度講師を招いて研修会が実施できた。 1年間の見直しをもち、つけたい力を明確にした授業を行うことが難しかった。	定期的に自主研修会を開き、授業に対する意識を高められるようにする。 様々な研修会や研究発表会に参加できるように、アナウンスする機会を増やす。	丁寧で分りやすい授業をされて素晴らしい。研修会や日々の事前準備等もできているからだと思う。 最後の授業参観後の学年懇談会では、担任の先生以外の同じ学年の先生の思いも聞き感動した。参加されなかった保護者にも伝えられる機会がほしい。 準備段階では完璧だと思っても実際の授業では児童に伝わらないこともある。この項目達成のハードルは高いが、日々の情報交換と見直し等の継続や、ベテラン教員の授業を若手教員も積極的に見に行くと心がけてほしい。 教職員の資質向上の観点も、授業のみならず、クラス内で発生する様々な出来事への対応力の向上にも取り組んでほしい。	
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	開かれた学校づくり	学校運営協議会を開催し、授業参観、情報交換、課題改善に向けた協議を行う。 授業参観やオープンスクールを行う。	保護者アンケートで「学校は、適切に参観の機会を設けている」、「学校は、保護者の願いに応えようとしている。」と回答した割合が共に80%以上になる。	A	保護者アンケートで「学校は、適切に参観の機会を設けている」、「学校は、保護者の願いに応えようとしている。」の項目で共に肯定的な回答をした割合が80%を上回った。	学校運営協議会で、授業参観、情報交換、課題改善に向けた協議を引き続き行う。 授業参観やオープンスクールを行う。	本校は、地域とのコミュニケーションが円滑に行われている。先生方がいつも挨拶してくれ、夏休みの交流会もとても良かった。引き続きお願いしたい。 コロナ禍で行えなかった授業参観等の保護者が来校する回数も増えた。園芸展はどれも力作で見ええ良かった。 学校運営協議会のメンバーは、各仕事や生活環境が異なるので、違った視点で学校を見られる。保護者対応等で困れば、私たちの意見も参考にすれば幸いである。
	安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	安全に留意し、落ち着いた学校生活の整備	年に1回防犯・防災訓練を行う。 年に1回火災訓練を行う。 学期に1回登校指導を行う。1学期に引き渡し訓練、一斉下校を行う。 1ヶ月に1回教室等の整備を確認。該当箇所のある場合、技能員に報告し維持保全に努める。 週に1回定時退勤日を守るように努める。年に1回労働安全衛生委員会を開き、働き方改革をしていくように努める。	児童アンケートで「災害が起きたときにどのように行動すればいいか知っている」と回答した割合が89%以上、「知らない人に声を掛けられそうになったり、おそれそうになったりしたとき、どうしたらいいか知っている」と回答した割合が85%以上になる。 保護者アンケートで、「あなたのお子さんは、災害時の行動の仕方を身に付けている」と回答した割合が40%以上、「あなたのお子さんは、不審者に対する対応の仕方を身に付けている」と回答した割合が30%以上になる。	C	児童アンケートで「災害が起きたときにどのように行動すればいいか知っている」と回答した割合が84%、「知らない人に声を掛けられそうになったり、おそれそうになったりしたとき、どうしたらいいか知っている」と回答した割合が74%で、目標は達成していないが、肯定的な回答(ややそう思うを含む)はともに90%をこえていたため、意識は高まっているように思う。 保護者アンケートで、「あなたのお子さんは、災害時の行動の仕方を身に付けている」と回答した割合が19%と目標を下回った。	「ややそう思う」「そう思う」にしているために、児童を含めた訓練を続けていく。避難訓練の前だけでなく、普段から災害時に取るべき行動などを伝えていく。 訓練の様子を学校便りや教室で振り返りをして、子どもが家でお家の人と対応について考えるように伝える。	必要な教育環境整備は実施できている。特に技能員さんが籍留にされていて素晴らしい。 自己評価ではCだが、取組の方向性は継続的に良い。防犯防災訓練は、自分の命を守るために貴重であり、繰り返すことで児童も成長できる。 安心安全について保護者と児童が家で話さなければならない。能登地震があったので、家庭でも関心が高まっていると思う。

学校関係者評価総括

全般を通して、教育目標達成に向けて、丁寧に取り組まれている。PDCAがしっかり回っており、課題も明確であることから、改善策を次年度も進めていられることを願いたい。児童アンケート結果から、学年により似た特性も傾向を持っているとの印象も受けた。各学年の特性を見ながら、より伸ばして欲しい。

次年度に向けた重点的な改善点

瑞穂の子どもたちが「学校が楽しい」「授業が分かりやすい」と思うためには、今後も先生が何をしなければならぬのかをさらに考えていただきたい。「確かな学力」の育成のためには、教員の授業力向上が不可欠である。さらに実のある研究を行っていただきたい。